

2016年度
前期科目履修終了時評価
に対するコメント
【看護学研究科】

人間環境大学 FD委員会
看護学部・看護学研究科分科会

博士前期課程

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	MA0101	看護学研究法特論M	森・倉田・西川・ 郷良・北川	質的・量的研究法、調査研究法、実験的研究法を学修し、研究プロセス、論文作成法を理解するという授業目的に対し、評価は4項目である。学生自己評価は概ね理解できた。主体的取組みは4.5/5点であった。研究手法について、系統立てて理解でき、研究の方法により、分析方法がことなり、研究デザインの違いについて学んだ。パワーポイントや資料活用の授業で、わかりやすかった。ミックスメソッドの授業は難しく、量的・質的研究法の講義の後の方がより理解できると感じた。次年度の授業展開に取り入れることとする。
2	MA0201	疫学統計学M I	市川・西川	目的:保健医療分野の研究で得られるデータの統計学的分析の基本をを修得する。また調査研究を計画し実施するうえで基盤となる調査研究プロセス(質問紙作成と留意点、データの種類、データ収集・分析・調査実施など)、保健医療情報を取り扱う際の留意点・遵守すべき倫理的事項を修得する。 評価項目の設定数:4 受講生からのコメント:苦手な統計学であるが、資料が分かりやすく、PCを用いた演習で理解しやすかった。研究への取り組み方、調査の組み立て、データ収集、分析方法などが大変参考になった。 今後の課題:統計学や調査研究の経験値が学生により異なるので、それぞれへの対応に工夫が必要と考える。
3	MA0401	看護理論特論M	小笠原 知枝	1. 科目の目的:看護理論の変遷とさまざまな理論の構造と特徴及び限界について知識を深めるとともに、看護理論の活用方法を探求して、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な論理的な思考能力を高めること。2. 評価項目の設定数:5項目 3. 受講者のコメント:①理論の特徴を具体例を提示しながら説明されたので、わかりやすかった。②前回の復習を交えて発問されるので理解の程度が自分自身もわかった。③看護診断については実践に活かせるように説明されよかったです。④まだまだ勉強不足も自覚でき、今後の課題にしたい。4. 今後の課題:発問を多くして理解度を高め、実践に如何に活かすかを観点から授業をして効果をあげているが、さらなる批判的能力を高めるには、討議などの工夫が課題である。
4	MA0601	看護倫理特論M	内藤・森・小笠原	履修者は2名で、全員が科目を主体的に取り組めたと評価しており、科目の目的は達成できたといえる。学生コメントでは、知識のなかった生命倫理や子どもの倫理的課題、エンドオブライフケアの現場の問題等を考えることができ、自ら学習して発表するので学習時間を多くとれ研究の根底の倫理について学べたであった。次年度も学生相互に、講義、課題学習の発表、討論やデベートなど多義的に、身近な事例を抽出し、臨床看護や教育、研究の現場での看護倫理について学べるよう、さらに学生参加型の講義方法の工夫に努力する。
5	MA0901	国際保健看護学特論M	西川・市川	科目の目的:国際看護を学ぶことによって近隣者もしくは世界の人々に平等なヘルスケアを提供することをめざす。そのために、国際社会においてヘルスの分野で活躍できる基礎を学び、将来その実践リーダーや教育者へとつなげる事ができる。 このクラスでは、(1)国境を越えて移動している人々(日本からの渡航者と来日外国人両方)の国家間のギャップと問題点を理解する。(2)看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況と問題点を理解し、その対策を検討できる。(3)世界の看護、看護師の移動に対して、より深くポイントを絞って学ぶ。(4)海外のフィールドから、現場の実践、挑戦、価値を学び、わが国の活動を活用する。(5)国内において国際保健看護学のイニシアチブをとることが出来る。 履修終了時評価表の評価項目の設定数:5項目を評価基準とした。 受講者からの評価やコメント: 今まで考えたりしたことがなかった世界のヘルスや看護についての重要な事柄について理解を深めることができた。 今後の課題:深く洞察できる工夫の一つとしてテーマごとのディスカッションを増やしたいと考えている。
6	MB0101	看護教育学特論M	小笠原・篠崎・伊藤	1. 科目の目的:教育学や教育心理学的の諸理論を基盤に、看護教育学に関する基礎的概念や理論を習得し、基礎看護学における基礎的知識、看護ケア技術、看護者としての倫理的態度を育成する指導方法を探究する。併せて、諸理論やEBNなどの文献のクリティークにより、効果的な教育方法や教材の開発法を探究する。2. 評価項目の設定数:6項目。3. 受講者のコメント:①新知識の習得の実感ができた。②具体例を提示で理解しやすかった。③学生の意見を発表できる場があり、より理解が深まった。④講義内容以外の話とも興味深かった。4. 今後の課題:教育学や教育心理学的の諸理論を基盤にした講義の展開によって、看護学教育に対する興味と関心を高めることができたが、受講生を多くして討議を深めることが課題である。

7	MB2101	看護保健管理学特論M	藤原 菜佳子	科目の目的は院内から院外へとケアが継続する看護保健管理上の課題に対処するために、看護実践リーダーとして、他職種・他部門・他施設・地域などとの協働・連携の役割・方法および連携システムの構築の要件とその活用法を学ぶことである。評価項目数3。履修すべき内容を、受講生の仕事内容を加味して自身の経験を含めてプレゼン課題を設定した。受講生からは、発表資料を用意するのが大変ではあったが、日常の業務と照らして協働、連携についての学びを深めることができたとのコメントがあった。今後は授業目的に関する理論を共通理解した上で授業を展開する予定である。
8	MC0101	小児看護学特論M	森・倉田・深谷	小児看護の基盤となる諸理論を学び、小児と家族の健康問題に応じた援助方法を探求する授業目的に対し、評価は3項目である。学生自己評価は、授業はわかりやすく理解できた。3.7/4点で、小児看護の経験が少ないが、知識が得られ、視野が広がった。事例を用いての講義は、興味をもて学びを深めることができた。
9	MD0101	クリティカルケア看護特論M	柴山 健三	1) クリティカル状況下にある患者とその家族を中心とした看護実践をするための病態、治療およびその管理方法、クリティカル状況下にある患者への生体侵襲による反応と適応について理解できる。 2)3項目 3)現在勤務している救急外来と手術室の両方の知識として、とても有効でした。 4)受講者に興味のある話題を提供してゆきたい。
10	ME0101	在宅看護学特論M	島内・石井・福田 山本	〈石井〉科目の目的は在宅ケアにおいて自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために必要な知識と技術力向上の基盤能力形成をめざす。 オムニバス形式授業。学生は一人。科目評価表の評価科目は4項目で4段階評定①できる②ある程度できる③あまりできない④できないのうち②の評定項目が多く、学生と教員の評価は一致していた。学生の評価の感想はレベルが少し高いものがあつたが現場経験が少ないためであり授業によってこれらは補われてある程度理解し、面白いと感じたとのことであつた。さらに学生の現場経験を考慮して展開する必要がある。 〈山本〉在宅看護学特論Mはオムニバスのため、15回のうち2回を担当した。課題は在宅ケア利用者と家族のQOL支援である。学生2名に対し、在宅療養中の利用者の生活の質とは？、介護をしている家族の生活の質とは？についてデジスカッションしながら、QOLに繋がる在宅ケアを考えてもらった。評価はレポートにて最終段階で行い、評価した。受講生からは様々な視点で在宅看護を学ぶことができたのコメントを得た。今後は、より実践を通し、在宅で最期まで療養できるためのシステムについて考えられる授業方法を展開していく。

博士後期課程

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	DA0101	看護学研究特論D	島内・藤原・西川	科目の目的は自立した研究者としての看護学の学問的発展に貢献できる研究者となるために領域別特別研究前の研究計画の共通基礎に当たる。 オムニバス形式で7名の受講した科目評価項目数8項目で4段階中全学生が①できると回答していた。学生は授業の最期の2コマで研究方法に関する授業を反映して自己の研究計画書発表会を設定した。その後にグループ討議を行ったが各学生間で研究を相互学習し共有できて満足度が非常に高かった。研究計画書発表会前に十分な資料用意と事前準備を強化し、学生が読んでから参加する工夫が必要と考える。
2	DA0201	疫学応用統計学D	市川・西川	目的:疫学研究での指標、要因・暴露、因果関係、交絡因子、疫学研究方法、健康関連調査実施のプロセス(質問紙作成から調査実施まで)、疫学研究に用いられる統計学的分析を学習する。 GIS(Geographic Information System)およびテキストマイニングを学習する。 評価項目の設定数:4 受講生からのコメント:学生の関心や理解にあわせて講義が進められた。学生が発問しやすい講義であった。データの扱い方、考え方、統計の処理を学べた。自身の研究のヒントとなる内容であった。 今後の課題:概ね、講義に対する反応はよかった。研究計画を熟考している時期であるため、博士の学生に適した講義となるようにさらに工夫が必要と考えている。
3	DB0101	看護教育学特論D	小笠原・篠崎・伊藤	1. 科目の目的:わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発、看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価、看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築、現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価などの習得による教育方略力や教育評価力を高めること。2. 評価項目の設定数:4項目。3. 受講者のコメント:①実際の研究を例にあげられ、具体的に理解が深まった。②学生の理解度に応じた講義が工夫された。4. 今後の課題:本科目は看護教育学特論Mの既習を前提に内容が組み立てられているために、看護学教育に対する興味と関心を高めることができたが、課題達成度はやや低くなった。今後は前期課程の内容をレビューした上で、看護教育学特論Dを展開する必要がある。
4	DC0101	小児看護学特論D	森・倉田・深谷	授業目的は、子ども・家族の諸理論の変遷を概観し、関連領域の研究のクリティークを行い、小児看護学領域の課題を明らかにし検討できる。評価は4項目である。学生自己評価は、理解でき4/4点で、最高であった。海外文献・幅広い視点で学び、楽しく学ぶことができ、意欲も高まった。週に連日は厳しい面がある。次年度は、2コマを入れても調整可能か検討したい。
5	DE0101	在宅看護学特論D	島内・石井	科目の目的は在宅ケアにおける諸外国制度・サービスシステム、国際研究の動向を分析して、在宅ケアの質向上と量的拡大のために実践に活用できるエビデンスの作り方、研究エビデンスの活用、ケア実践からアウトカム評価などから自己研究計画に反映できるようにすることをめざす。 本学教員1名と非常勤講師3名のオムニバス形式で2名の学生であった。評価は6項目で全体として理解はできたがそれを研究案に応用して記述するには文献購読不足もあり、まだ十分できないものもあった。1回毎に次回の課題の宿題を出し点検して次へ進めた方が課題を焦点化できてよいと考える。
6	DE2101	地域看護学特論D	三徳・西川	科目の目的:地域で生活する人々の健康水準の向上を目指して、地域看護の実践と研究の相互関係的な進め方を講義・討論を中心として展開する。そこでエビデンスに基づいて地域看護活動の方向性と地域看護活動課題を見出す。地域の人々が保健行動を改善し、定着化できる力量を身に付けていくことを目指す。そのために、自立して地区踏査、行政データの分析、調査等を通じて、地域の県央課題と、健康に関連する諸要因を明らかにし、課題解決に向けて行政と住民と各種組織・団体がチームで取り組むために、具体的な行動に移せる計画を十員や関係者と立案し、実行し、評価し、次の活動に生かす行動がとれるようになることを狙いとする。 今後の課題:1.課題の講義と検討が深まるように、発表方法の工夫をしていく。 2.発表目的にそって、既存データの加工を行い、わかりやすいデータになるように心がける。 3.学生間での議論ができやすいように、時間を十分に確保する。